

実績報告書

届出者	住所	大阪市福島区海老江1-1-23	氏名	イオンリテール株式会社 近畿北陸カバニー支社長 後藤俊哉
特定事業者の主たる業種		56各種商品小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		食品・住生活・衣料服飾等の商品及びサービスを提供する総合小売業。 平成28年3月より、(株)ダイエーから5店舗を承継しています。 ショッピングセンター32店舗(四条畷2015年10月開店、堺鉄砲町2016年3月開店、寝屋川2016年8月一旦閉店)、計34事業所を展開		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	89,890 t-CO ₂	114,952 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	103,233 t-CO ₂	133,004 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.1 %	-6 %	4.5 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-6.2 %	7.6 %	-28.9 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

LED導入は全て完了し、季節ごとの省エネチェックリスト(自社独自)に基づき、各店の人事総務課長が主体となって設備担当者とともにチェックを行っています。
社内資格であるエネルギーアドバイザーの資格取得者を配置し、管理の強化を行っています。

(4)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

弊社はISO14001を取得しており、店舗では店長を推進責任者・人事総務課長を実施責任者として、電気使用量の削減に取り組んでおります。
平成28年度は電気使用量昨対比103.7%と削減未達となりました。
原因としてはダイエーから承継に伴う店舗数の増加や例年の猛暑による空調フル運転の影響だと考えます。
今後もより一層、環境に配慮し省エネチェックリストの活用、エネルギーアドバイザーによる管理の強化を行ってまいります。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

弊社はIS014001を取得しており、店舗では店長を推進責任者・人事総務課長を実施責任者として、電気使用量の削減に取り組んでおります。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	茨木	コード (0)	基本照明のLED化。省エネチェックリストの運用。	27 年度 ～ 27 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	東岸和田	コード (0)	基本照明のLED化。省エネチェックリストの運用。省エネチェックリストの運用。	26 年度 ～ 26 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	北千里	コード (0)	外構（搭屋）照明のLED化。省エネチェックリストの運用。	26 年度 ～ 26 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	新金岡	コード (0)	外構（搭屋）照明のLED化。省エネチェックリストの運用。	26 年度 ～ 26 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	鴻池	コード (0)	バックルームの照明LED化。省エネチェックリストの運用。	26 年度 ～ 26 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	箕面	コード (0)	バックルームの照明LED化。省エネチェックリストの運用。	26 年度 ～ 26 年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	高槻	コード (0)	直営エリアの水冷PACの更新。省エネチェックリストの運用。	27 年度 ～ 27 年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	日根野	コード (0)	熱源GHP更新	28 年度 ～ 28 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全事業所	コード (0)	エコドライブの推進	26 年度 ～ 28 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市大正区鶴町2丁目24-55	氏名	イケア・ジャパン株式会社 代表取締役 ヘレン・フォン・ライス
特定事業者の主たる業種		60 その他の小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に家具を販売しており、食器や雑貨などの小物も販売している。 また飲食店舗も営んでいる。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,405 t-CO ₂	2,819 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,147 t-CO ₂	3,186 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3.3 %	11.6 %	27.1 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	17.4 %	31 %	23.2 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延べ床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

LED照明の100%化推進、太陽光発電設備の設置及び省エネ機器の導入などを強力に進めており、それが数値となっている。	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

IKEAの製品はすべて環境に配慮して作られてなくてはなりません。また、お客様がより持続可能な家庭生活を送れるよう、省エネや節水、ゴミの削減に役立つ製品を提供しています。
また従業員は、サステナビリティeラーニングを通じて、持続可能性の実現に向けたIKEAのアプローチを理解し、さらにIKEAのビジョン『より快適な毎日を、より多くの方々にご提供する』を実現する一環として、私達が力を合わせて人々と環境の為に何が出来るかを理解するための教育を受けています。詳しくは下記URLをご覧ください。

http://www.ikea.com/ms/ja_JP/the_ikea_story/people_and_the_environment/the_never_ending_list.html

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	イケア・ジャパン株式会社 IKEA鶴浜	コード (5111) 空調設備の省エネ運用	チラーへの純水散布システム導入	26 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	イケア・ジャパン株式会社 IKEA鶴浜	コード (5111) 空調設備の省エネ運用	給排気ファンへのインバータ導入	26 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	イケア・ジャパン株式会社 IKEA鶴浜	コード (1218) 省エネ照明設備の導入	共用部照明 (HF蛍光灯) と売場照明の一部をLEDに更新する (H26年度2F売場、H27年度1F売場の更新完了)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	イケア・ジャパン株式会社 IKEA鶴浜	コード (4210) 空調設備の省エネ運用	2Fオフィスエリアとレストランエリアの窓ガラスへコーティング剤塗布	26 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	イケア・ジャパン株式会社 IKEA鶴浜	コード (1218) 省エネ照明設備の導入	セルフサーブエリアとナビタワーの照明をLEDへ更新する (H26年度セルフサーブ完了、H27年度ナビタワー完了)	26 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	イケア・ジャパン株式会社 IKEA鶴浜	コード (2123) エコドライブの推進	カンパニーカーを使用する場合は、エコドライブを実施する 継続中(約0.01t-CO2削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府茨木市彩都あさぎ7-6-8	氏名	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長 米田 悦啓
-----	----	------------------	----	------------------------------------

特定事業者の主たる業種	71 学術・開発研究機関		
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要	<p>当研究所は、医薬品技術及び医療機器等技術に関し、医薬品及び医療機器等並びに薬用植物その他の生物資源の開発に資する共通的な研究、民間等において行われる研究及び開発の振興等の業務を行うことにより、医薬品技術及び医療機器等技術の向上のための基盤の整備を図るとともに、国民の健康の保持及び増進に関する調査、研究、国民の栄養その他国民の食生活に関する調査及び研究等を行うことにより、公衆衛生の向上及び増進を図り、もって国民保険の向上に資することを目的としている。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,237 t-CO ₂	4,874 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,819 t-CO ₂	5,413 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	4.8 %	6 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	8.4 %	5.8 %	7 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>H25年度に増築した創薬支援ネットワーク棟がH28年度にフル稼働となった。温室効果ガスの削減のため下段に示した要請対策を実施した結果、一定程度の削減に成功した。とりわけ電気使用量については、H26年度 6,397kwh H27年度 6,199kwh H28年度5,994kwhと対前年度比3%程度の削減となった。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当研究所は、省エネ型の施設として建設され、照明のインバーター化や、トイレ及び階段の照明に人感センサーシステムが設置されているなど、各所に節電対策が施されている。また、毎年、夏季及び冬季に節電実行計画を策定し、冷暖房の温度制限など、節電に関する具体的な取組みを職員等に周知するとともに、総務部長を本部長とする節電対策本部を設置し、節電状況の確認等を行っている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所	コード (1111) 対策計画の点検・管理	総務部内で、対策計画の点検・管理を実施	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所	コード (1113) 省エネ設備の適正管理	照明のインバーター化やトイレ照明の人感センサーシステムの適正管理	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所	コード (1113) 空調の適正温度の設定	空調の適正温度の設定 (夏季：28℃、冬季：19℃)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策
